

荷物らくらく登校の試行報告について

教育委員会では、「家庭学習で使用しない学用品等は持ち帰らない」など、各校において、登下校時の荷物の負担軽減に取り組んでおります。

また、学校統合等を契機とした「まちだの新たな学校づくり」を通じて、まちだの未来の子どもたちに、より良い教育環境を整備する取り組みを進めております。

これらの取り組みを一層推進するため、現在新たな学校づくりを進めている本町田地区の小学校において、「荷物らくらく登校」の試行を実施しました。

今回、試行の概要と実施後アンケートの結果をご説明します。

(1) 目的

荷物の「重量の軽減」及び「数量の削減」に向けて、課題や影響を把握すること。

(2) 試行内容

期 間：2023年9月11日（月）～22日（金）

対 象 校：町田第三小学校、本町田東小学校、本町田小学校

対象学年：3～6年生（本町田小学校のみ1～6年生）

方 法：①リュックなど両手の空くカバンの利用を推奨

②期間中、筆箱や Chromebook などの学用品は原則持ち帰らない

③期間中、最低1日は水筒のみで登校する日を設ける

(3) 試行後のアンケート結果について

児童、保護者、教員を対象に、アンケートを実施しました。以下はアンケート結果から特徴的な意見を抜粋したものです。

【満足度について】

参加者のうち、児童の約84%、保護者の約70%が参加してよかったという回答でした。

【登下校時のカバンの希望について】

① ランドセル 児童：約27%、保護者：約37%、教員：約42%

② 自由なカバン 児童：約66%、保護者：約55%、教員：約47%

と、回答者の属性によって回答の傾向に差がありました。

【持ち帰りが大変なものについて】

クロームブックや教科書、絵の具といった回答が目立ちました。また、自由記述ではクロームブックをはじめ、複数のものの持ち帰りが重なった際に非常に大変（大変そう）といった回答も目立ちました。

【その他】

「ランドセルではないことで登下校中かの見分けがつかない」「防犯ブザーのつけ忘れや忘れ物が多かった」といったご意見がありました。

(4) 教員からの声

各クラスの担任の教員に、試行にあたって宿題の出し方で工夫した点や、苦労した点などを報告していただきました。以下は報告書から特徴的な意見を抜粋したものです。

【宿題の出し方について】

「プリント形式の宿題にする」「漢字・計算のドリルのみにする」「宿題を出さない日を設定する」などの工夫をしたという意見が多く上がりました。

【試行により困ったことについて】

- ・クロームブックで出していた宿題が出せなくなった。
- ・ご家庭との連絡手段として活用している教員も多く、連絡手段がなくなったのが不便だった。
- ・ナフキンや防犯ブザーなど、忘れ物が増えた。
- ・手紙の入らない大きさのカバンで登校した児童がおり、プリントが折れてしまった。
- ・ランチョンマットなどを持ち帰れないことにより、衛生面が心配だった。
- ・変化への対応が苦手な特性のある児童が困惑していた。

【試行期間中に児童が持ち帰ったもの】

各学校共通して、連絡帳・連絡袋は基本的には毎日持ち帰っていたという結果が出ています。学校により差もありましたが、筆箱も毎日持って帰っている学校もありました。全体として、持ち帰るものは減らせておりましたが、やはり週末には体操着や給食用の白衣など含め、持ち帰らなくてはならないものが多いという結果でした。